

ま え が き

新興国が注目されて久しい。BRICS と総称されたブラジル、ロシア、インド、中国、南アフリカの発展は顕著で、貿易・投資・援助等さまざまな側面から、世界経済への影響力を高めている。一方、低所得国のなかから、新たな変貌の兆しをみせている国がある。バングラデシュもそのひとつであり、「新・新興国」として、その工業化の急展開が新聞の一面を飾るほどに、関心を集め始めている。しかし変貌が急速であればあるほど、その変化をとらえた情報が少ない。同国の産業について、より詳細な調査を行い、具体的な情報を提供する目的から、研究会が組織され、本書が編集された。

しかし、そうした「公的」な目的とは別に、編者である私たちの個人的な思い入れも、本書を出版するに至る大きな動機であった。バングラデシュについてさまざまな切り口で調査を行ってきた私たちの出発点は、ともに製造業だった。1人は1980年代半ば、上司について行った出張で、首都から遠く離れた地方都市でジュートや綿繊維、製紙の古い工場を訪問したことが、バングラデシュの企業家の存在に興味を抱ききっかけになった。もう1人は1990年代半ば、東アジア、東南アジアの工業化のパターンであった労働集約産業が牽引する工業化が、アジアの一大貧困国であったバングラデシュにおいてもアパレル産業（当地では「ガーメント・インダストリー（garment industry）」と呼ばれる）を通じて実現されつつあったことに関心をもった。その時から20～30年近くを経て、ようやくバングラデシュの製造業に関する本とともに編集出版した今、同国経済・社会の変貌とともに、その調査を可能にしてくれた環境の変化を強く感じている。

本研究会を進めるにあたっては実に多くの人にお世話になったが、とりわけ2年のあいだ、現地での企業調査のパートナーを務めてくれたメトロポリタン商工会議所（Metropolitan Chamber of Commerce and Industry, Dhaka: MCCI）からは、本書の根幹となる情報収集において多大なる便宜を受けた。本調査の意義を認め、MCCI が有するリソースの全面的な利用を快諾してく

れた Farooq Ahmed 事務局長の存在がなければ、そもそこの調査は成立しなかった。英領期の1904年に設立された、バングラデシュでは最も歴史の古い経済団体である MCCI は、加盟企業を大手に絞っており、大手企業からの聞き取りを主体とした本研究会にとって最適なパートナーであった。多忙な業務の傍ら企業調査を自ら行ってくれた Shaquib Quoreshi (シャキブ) 事務局次長は、偶然にも編者の1人の同窓生であったが、ほぼ四半世紀ぶりの嬉しい再会が、このような成果につながったことは望外の喜びである。調査の開始時点で、予期せぬ病気を経験した編者の1人にとって、シャキブの的確、迅速な判断と行動力がなかったら、企業調査の実施そのものが難しかっただろうと、今、感謝とともに思い返している。

Media Professionals Group (MPG) の Samar Roy (ショモル・ダ) 所長もまた、研究会の2年間の歩みを見守り、つねに適切な助言と情報を提供してくれた。幅広い分野のメディア調査、市場調査などを行ってきた同団体は、独自のネットワークと情報を有しており、MCCI と進めた企業調査の欠けた部分を補完したり、情報を別の角度から検討する材料を提供してくれたりした。なかでも、900部を超える上場企業の年次報告書の収集は、ショモル・ダのネットワークと効率的な作業モデル構築がなければ不可能であったろう。公開情報に乏しく、また公開された情報ですら、時間とともに入手が困難になるバングラデシュの企業研究を行ううえで、極めて貴重なデータである。

本書の執筆者はすべて、ジェトロ・アジア経済研究所およびジェトロ本部の職員である。そのうちの4人は、現在または元のジェトロ・ダッカ事務所員である。おそらく日本人のなかで最も切実に、日本人や日系企業のバングラデシュに対するまなざしの劇的な変化を感じている4人の参加によって、最新の情報が得られると同時に、バングラデシュの活力を、いかに日本経済の再興につなげ互恵的な関係を築くかという戦略的な見方を、本書に盛り込むことができた。

最後に、私たちが最大の感謝を捧げるのは、調査に協力してくれた185の企業や企業グループである。今回の調査の成果を、本書を超えたさまざまな形で発表し、これら企業へのフィードバックを行うつもりである。その

ためには、今後大きくふたつの課題に取り組む必要があると考えている。第1に、本書が描いた個別製造業ならびに企業の輪郭を、今後、より詳細な情報収集と精緻な分析に引き継いでいくことである。第2に、個別産業を超えた産業間の連関や、国境を越えたサプライチェーンの現状や課題等について分析を進め、東アジア・東南アジアと南アジアの結節点に位置するバングラデシュの可能性を、より深く検討することである。

こうした課題を含め、バングラデシュに関心をもつ読者にとって、本書がひとつの出発点を提供することができるならば、これに勝る喜びはない。

2014年9月
編者

本書は、2012年度から2013年度にアジア経済研究所が実施した「バングラデシュの製造業の現段階に関する基礎的研究」の成果として出版された。